

日本代協

近畿・阪神合同ブロック協議会 6府県の代協会長らが参加 好事例等を活発に意見交換



約60名が参加(京都・嵐山で開催)

日本代協近畿・阪神合同ブロック協議会が6月18日午後2時から、京都・嵐山のとりよねで役員ら約60名参加のもと開かれた。

主催の近畿ブロック大谷和之会長(滋賀県代協会長)の司会で始まり、平尾武士(奈良)、田中康三(京都)、黒石光寿(大阪)、塩谷広志(兵庫)、中村利雄(和歌山)各代協会長および日本代協の小出富晴副会長、川本吉成理事、辻本完治相

談役らをはじめ参加者の自己紹介があった。

日本代協関係報告として、川本理事から、平成28年度通常総会後の理事会での各委員会への諮問・推進事項等について、小出副会長から、熊本地震に係る義援金関係の報告があった。大谷ブロック長は全国会長懇談会で三冠(会員増強・国民年金基金・コンサルティン

グコース)を達成した京都、奈良、山梨、長崎、熊本の5代協が表彰されたこと、奈良県代協が会員増強の好取組事例とし

て発表されたことなどを報告した。同代協ではスマホアプリのLINEを活用し、理事全員のグループを使うことで会員募集の経過や状況をリアルタイムで把握、共有できるようになったことが会員増強につながった。各委員会から報告があり、CSR委員会「こども110番の家」の推進取り組みなどを説明し、ビジョン委員会がブロック協議会のあり方を再検討していく旨、報告した。

続いて西ブロックと各代協の活動報告と平成28年度スケジュールの報告があった。組織率68・6%で全国ベスト3に入る和歌山県代協では、ディナーや修理工場、金融機関に加入を促して会員拡大を図ることとしており、またそれが友好的話し合いの場を増やすことにもなるのではという意見が述べられた。

また、個社が信用金庫会員事業者向け火災保険で集団扱一括割引を適用することの影響などについて意見交換があり、近畿・阪神ブロック連名で日本代協本部へ調査依頼を含めた対応を申し出ることで意見が一致した。

終了後の親睦会では舞妓さんによる舞やお茶屋遊びなど、京都ならではの雰囲気を楽しみながら参加者一同、親睦を深めた。